



## 市の花 「梅」<sup>うめ</sup>

早春に香り高い花を開く梅は、昔から庭木や盆栽として観賞されてきました。市内には果実栽培の梅林も散在します。五弁の花は、5ヵ町村の合併で誕生した都留市を象徴しています。



## 市の木 「赤松」<sup>あかまつ</sup>

常緑樹の赤松は、めでたい門松に飾られ、建築材に活用されます。市内で赤松は森林面積の約3分の1を占め、自然景観を豊かにしています。直立した幹と、四方へ末広りの枝とは、市の発展を象徴するかのようです。



## 市の鳥 「鶯」<sup>うぐいす</sup>

標高の高い山並みに囲まれ、緑の木々や溪谷を縫って流れる清流など、市の周辺は自然環境に恵まれています。早春から初夏にかけて最も多く聞ける鶯は、自然に恵まれた平和な都市を象徴しています。

# 市民憲章

わたくしたち都留市民は

- \*健康で明るいまちにいたします。
- \*自然を愛し、美しいまちをつくります。
- \*文化都市にふさわしい豊かなまちを築きます。
- \*たのしく働き活気のある産業のまちに育てます。
- \*たがいに信じ協力し、平和なまちをつくります。

(昭和44年4月15日制定)



市章

「都留」の起源はむかし、富士の裾野が蔓ののびた様子を想像し、「連葛」とか「豆留」などと書かれ、また和銅年間の書には「鶴」とも書かれていた。鶴が多く棲息していたこの地に縁をとって「都留」と名付けた。市章は、カナ文字、ツルの二字を形どって図案化した。

### 〔表紙説明〕

葛飾北斎の下絵と伝えられ、八朔祭りや屋台の後幕として飾られた「牧童牛の背に笛を吹く」を素材に、都留市のイメージである清流、深緑をデザインし、浮世絵風に表現しました。

平成  
29年  
10月  
18日

桐本美津子氏寄贈

発行日/昭和61年10月1日

発行/山梨県都留市

編集/企画課

製作/PRECON